

令和6年度 宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事【要旨】

開催日時 令和6年7月30日（火）

14:00～16:00

場 所 さくらドーム21 2階 視聴覚室

出席者

委 員 松田健一、上野浩幸、岩網清美、山田泰輔、新江保治、宇野文夫  
津田栄、山本和紀、木村久利、吉井一貴、宮本憲、中町秀美

町職員 守田幸浩商工観光課長、秋田正之農林水産課長、杉谷克久地域整備課長  
山本重之健康福祉課長、松坂久代健康づくり推進室長、中川郷子子育て応援室長  
松浦賢也学校教育課長、杉谷靖史学校教育課担当課長、宮本孝則生涯学習課長  
長谷川能之総務課長補佐

事務局 坂井賢企画情報課長、河端晶企画情報課長補佐、定免忠史企画情報課長補佐  
國田彩主幹

欠席者

委 員 芝田智人、福岡辰彦、岩網哲雄

（事務局）

- ・開会挨拶
- ・欠席委員報告
- ・委嘱状配布による委嘱
- ・町長挨拶の案内

（寶達町長挨拶）【要旨】

皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議は第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略の検証、分析についてお願いをし、また今後の第3期の戦略に向けて、ご意見をいただきたいというふうに存じておるところでございます。

総合戦略は町の持続的な発展に向けて、地域の強みや様々な課題、町の特性をよく認識した上で、これにしっかりと取り組んでいく、そういった戦略でございます。

町民のニーズや希望をしっかりと把握した上で、盛り込んでいくことが重要でございまして、先にごございました能登半島地震、こういった課題も踏まえて、誰にとっても安心して暮らしやすい、そのような町を目指していきたいというふうに思っております。

また、多くの方に活発に活動していただける産業作りであったり、スポーツを始め様々な活動支援、こういったものにもしっかりと取り組んでまいりたいというふうに存じておるところでございます。

そして、第3期の戦略につきましては、国のデジタル田園都市国家構想を盛り込んだものにしていくということにしております。

地域における様々な資源、人や物、良い環境と、いろいろとございますけれども、これを効果的に効率的に活用していく。このような発想が大事でございまして、デジタル技術を充分に取り組んだものにしていきたいと思っております。

また、少子高齢化については大変深刻な状況にもございます。今後は、人材の面でも大変厳しくなつてきます。我々職員が精一杯頑張らなんのは当然のことではございますが、町内外の多くの方にご理解ご協力いただきながら、町の課題に取り組んでいく、町の良さをさらに伸ばしていく、やるべきこと数多くございますけれども、しっかりと取り組めるように、取り組みの内容についても、やはり取捨選択をしていかないというふうに存じておるところでございます。

しっかりとした地域の発展に繋がる実効性のある戦略を目指していかなければならないというふう  
に存じてございまして、本日は皆様から良いご意見いただきたいというふう  
に存じております。

今年度は会議が複数回ございますけれども、引き続き、ご協力ご指導を賜りますように心からお願い  
を申し上げますご挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいいたします。

(事務局)

- ・町長が所用により退席する旨を報告。

【町長退席】

(事務局)

- ・配布資料確認を案内。
- ・会長選出

推進会議要綱の規定に基づき「会長は、委員の互選によりこれを定める」の旨を説明。  
自薦、他薦がないため、事務局に一任とし、会長を選出。

(会長挨拶)

- ・第1期宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時から携わってる旨を説明。
- ・様々な議論・意見交換をしながら、よりよいアイデアを出し合う場としたい旨を説明。
- ・本日の会議終了時間は15時30分予定である旨を説明。
- ・会長職務代理を指名。  
推進会議要綱の規定に基づき、会長職務代理を指名。

(事務局)

- ・議題の進行を会長に依頼。

(宇野会長)

- ・令和2年度に第二期総合戦略を作成し、今回は令和5年度の取り組みを評価する旨を説明。
- ・事前に委員全員に資料を配付し、評価・意見をいただいているため、基本目標ごとの詳しい説明は割愛。各事業の変更点、現状の課題、今後の取り組みを簡潔に説明した後、委員の意見書についての回答をする流れであることを説明。
- ・議事を進行し、「基本目標1 地方における安定した雇用を創出する」の説明・審議へ移行。

(坂井企画情報課長)

- ・新任委員がいるため、これまでの経緯について、資料1、資料2に基づき説明。
- ・「1. 宝の土地活用推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・地震の影響により計画変更となり、再度、活用に向けて検討する旨を説明。

(守田商工観光課長)

- ・「2. サテライトオフィス推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・事業内容について、まちづくり戦略事業に沿ったサービス業のチャレンジショップへの見直し・変更を検討していたが、地震の影響により、今年度の事業は見送りとなった旨を説明。
- ・「撤退した理由は」との質問に対し、県と連携して採用募集を行ってきたが、最終的には採用には至らなかった旨を説明。
- ・「3. 起業創業バックアップ事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「制度の拡充について」との質問に対し、補助対象事業の拡大、加算額の拡充を令和6年4月に改正した旨を説明。今後も、制度の充実を図っていききたい旨を回答。

- ・「4. 官民競争のまちづくり戦略事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・地震の影響により、今年度は事業を一旦休止する旨を説明。
- ・「経営の創作的復興プランを」との意見をうけ、多方面に検討していく旨を回答。

(宮本生涯学習課長)

- ・「5. スポーツイベント振興事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「宝達山ヒルクライム中止」についての質問に対し、走路スタッフを担っていた専門学校の廃校等により人員不足となり中止となった旨を説明。今後は宝達スポーツ文化コミッションと町内の店舗の連携強化により、地域経済の活性化を進め、交流人口関係人口の拡大を図る旨を回答。

(守田商工観光課長)

- ・「6. ふるさと会交流促進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「学生にサポーターになってもらい、まちの魅力を知って発信してもらおう」との意見に対し、引き続き、ふるさと会、事務局等と緊密に連携を図りながら、持続発展に向けた方策に取り組みたい旨を回答。
- ・「ふるさと納税」についての質問に対し、花火大会の寄付金をクラウドファンディング型ふるさと納税とし支援をいただい旨を回答。

- ・「7. 宝のなぎさ交流促進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・現状をふまえた中で、まちづくりの方向性の整理、具体的な構想戦略等を見直し、検討を行う旨を説明。

(秋田農林水産課課長)

- ・「8. 農産物等ブランド化推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「町の特産品、ブランド品の知名度向上、販売数の確保」とのご意見に対し、メディアへの情報発信や

町広報紙、ホームページ等で周知をしていきたい旨を回答。

・「黒蜜姫、ルビーロマン以外のブランド品の構築」との意見に対し、紋平柿の知名度向上に向け、小学校児童の収穫体験や、地域おこし協力隊と宝達高校家庭部とが開発した紋平柿のドライフルーツ「KAKKY」の宣伝など、町としても後押ししていきたい旨を回答。

・「9. 新規就農者支援事業」について、資料3、資料4に基づき説明。

・「新規参入者を確保するために行っていること」との質問に対し、7月に農業インターシップとして、東京において能登での短期農作業研修の受け入れを実施したが、商談には至らなかった旨を回答。

・「新規就農者に対してのサポートが見えない」との意見に対し、新規就農者向けの町独自就農マニュアルや、補助支援についてのパンフレットの作成に向けて検討したい旨を回答。

(宇野会長)

・「基本目標1 地方における安定した雇用を創出する」の評価の取りまとめて行う旨を説明。

・「3. 起業・創業バックアップ事業」、「8. 農産物のブランド化推進事業」は「◎深化・発展」で採決してよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

・「4. 官民共創まちづくり戦略事業」、「5. スポーツイベント振興事業」、「6. ふるさと会交流促進事業」、「9. 新規就農新事業」は「○継続」が一番多いため、「○継続」とした。

【反対意見等の発言なし】

・「1. 宝の土地活用推進事業」は「◎深化・発展」1票、「○継続」5票、「△見直し」7票、「×中止・終了」2票と分かれているが、一番多い「△見直し」としてよいか委員へ質問。

(委員)

・目標も実績もゼロ。上手くいかない理由をきちんと掴んでいるのか。

(坂井企画情報課長)

・4カ所の町有地について説明。規模の大きさ等をふまえると企業誘致はなかなか難しい旨を回答。

(宇野会長)

・「見直し」する場合のポイントについて質問。

(坂井企画情報課長)

・本事業は現状は企業誘致に特化しているが、宅地造成も併せて行っていく必要がある旨を説明。

(委員)

・企業誘致が難しいという理由をきちんと掴んでいないことが問題。今お話ししたように、企業誘致することが絶対であると考えする必要はない。もっと町民にとって便利になるものと呼び込んでくるというのもひとつの手かと思う。

(宇野会長)

- ・改めて、本事業は「△見直し」としてよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

- ・「2. サテライトオフィスの推進事業」は「◎深化・発展」1票、「○継続」5票、「△見直し」7票、「×中止・終了」2票と分かれているが、一番多い「△見直し」としてよいか委員へ質問。

【委員発言なし】

- ・「見直し」する場合のポイントについて質問。

(守田商工観光課長)

- ・お試しサテライトオフィスの推進事業の現状、まちづくり戦略で行っているチャレンジショップ等含め見直しの必要性について説明。

(委員)

- ・お試しをしていた企業が撤退した理由について質問。

(守田商工観光課長)

- ・企業が撤退した経緯について説明。

(宇野会長)

- ・改めて、本事業は「△見直し」としてよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

- ・「7. 宝のなぎさ交流促進事業」は「◎深化・発展」2票、「○継続」4票、「△見直し」7票、「×中止・終了」1票と分かれているが、一番多い「△見直し」としてよいか委員へ質問。

【委員発言なし】

- ・「見直し」する場合のポイントについて質問。

(守田商工観光課長)

- ・今後について、どのように発展させていくか、一旦振り出しに戻って考えていく必要がある旨を説明。

(宇野会長)

- ・改めて、本事業は「△見直し」としてよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

- ・議事を進行し、「基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる」の説明・審議へ移行。

(杉谷地域整備課長)

- ・「10. 民間賃貸住宅建設補助事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・第3期に向けて、対応の大幅な見直し、制度の必要性、継続などを検討し、加え、空き家の利活用、

取り壊しに更なる支援など新たな施策を検討する旨を回答。

(坂井企画情報課長)

- ・「11. 宝の住まいる応援事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・定期的に事業のPRを図り、広報・SNSも活用した周知を行いたい旨を回答。また、定住促進協議会とも連携し、移住希望者に対する一体的なサポート体制の構築を図っていききたい旨も回答。

(杉谷地域整備課長)

- ・「12. 宅地造成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「当該地を修復して宅地造成としては」の意見に対し、地盤改良等大規模な整備が必要であることから、当該地での宅地造成は難しい旨を回答。宅地造成は必要であると認識をしつつ、まずは町内の災害復旧を再優先とし、新たな宅地造成について計画等検討していく旨を説明。

(坂井企画情報課長)

- ・「13. 空き家バンク事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「登録後すぐ売買、賃貸できるような仕組みを」との意見に対し、家財の撤去費用補助金等の増額等も考えていく旨を回答。

- ・「14 若者通勤サポート事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「申請書の減少の分析を」との意見を踏まえて、分析を行い、助成額の増額等も検討していく旨を回答。
- ・「15 奨学金返済助成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・第3期の総合戦略で削除の方向だが、石川県の動向を見極め、随時見直し、検討していく旨を回答。

(宇野会長)

- ・「基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる」の「10 民間賃貸住宅建設補助事業」、「11 宝の住まいる応援事業」、「13 空き家バンク事業」、「14 若者通勤サポート事業」は「○継続」が一番多いためそのまま「○継続」として、よいか委員へ質問。

委員への発言を促す。

(委員)

- ・14の事業について、若者の転出抑制に対して意味はあるのかなとは思う。事業としては問題無いので、「継続」でよいかと。

(宇野会長)

- ・改めて、4つの事業について「○継続」としてよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

・「12. 宅地造成事業」について、「◎深化・発展」5票、「○継続」5票、「△見直し」5票、「×中止・終了」0票となっている。委員の意見を聞き、改めて挙手をお願いする。

・委員へ順番に発言を促す。

(委員)

・地震の影響は大きかったと思う。特殊なことなので、すぐに「中止・終了」とはならないが、数年は様子見となるのではと思う。

(委員)

・町に人を呼び込むためには、家を建てれる環境を積極的にやっていく必要がある。  
・羽咋市の分譲地は出して、すぐ売れたということ聞いた。  
・町の活性化、若者を増やすという観点からすれば、見直ししながら、いい形でバージョンアップが必要。

(委員)

・将来的な財政のこともあるが、町の人口を維持する、減少を最小限に抑えるためにも、他の市町から来てもらう、他に転出していくことを止める対策として宅地造成は必要。  
・発想を変えて、町にある土地を活用するだけでなく、宅地を買ってでも、もっと呼び込む、攻めの姿勢もひとつ。

(委員)

・人が住みたいと思うような環境を作ることもひとつ。  
・他の市町と競争して補助金を出すことも必要だが、家を建てる土地がないとスタートができないので、宅地造成は、選ばれるような場所を設定して進めるべき。

(意見)

・ターゲットとなる層を明確にして連携した取組という意見がある。  
・事業を行っている課がそれぞれ違うことをやっていると思うが、目標は定住してくれる人を増やすという前提がある。  
・何を優先するのか順位をつけて計画をたてないとバラバラになっているように思う。

(意見)

・田舎の一部に来ようとする人はあまりいないと思う。  
・田舎の雰囲気と離れたところで、環境はよいが、田舎の人との複雑な人間関係を求めないというような場所に造成するものひとつの手だと思う。

(委員)

・住民を呼び入れるのもひとつだが、地域に残る人が増えればよいとも思う。  
・今いる人たちにも、PRが必要。

(宇野会長)

- ・宅地造成は全国的に見直しされている状況にある。
- ・若者を中心に新築という発想そのものが古いイメージになっている。人口減少にも絡んで、見直しが必要。
- ・委員に採択を諮る。結果、「◎深化・発展」1票、「○継続」4票、「△見直し」7票となった。
- ・「15 奨学金返済助成事業」は「◎深化・発展」1票、「○継続」3票、「△見直し」4票、「×中止・終了」7票で、「×中止・終了」が一番多いため「×中止・終了」として、よいか委員へ質問。

【委員発言なし】

- ・事業について2年前から中止となっている旨を説明。今後の取り扱いについて担当課へ質問。

(坂井企画情報課長)

- ・石川県でも奨学金の助成が始まっている。町の方でも県の動向を確認しながら、今後について考える必要がある旨を説明。

(宇野会長)

- ・議事を進行し、「基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の説明・審議へ移行。

(中川子育て応援室長)

- ・「16 子育て世代包括支援センター活用事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・宝子すくすくアプリの充実や内容の深化、子育て世代の方からの要望に応じた切れ目のない支援に努め、満足度を上げていきたい旨を回答。
- ・「アプリは子育ての不安を解消してくれる内容となっているか」との意見に対して、子育ての不安解消となるよう、発信内容を充実させるほか、相談については、対面や訪問を望む声も多く、今後もきめ細やかな支援を行っていきたい旨を回答。
- ・「17 不妊治療費助成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「助成金額、回数共に増やしてもよいのでは」、「満足度をヒアリングして手厚い内容にすることで出生率の増加に繋がるのでは」との意見に対して、不妊治療助成は、精神的に追い込まれるなど、個々の悩みが深く、今後も精神面、経済面を含めた支援、助成の拡充について検討する旨を回答。
- ・「18 未就学児の教育保育の質の向上」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・今後も指定管理者と連携し、保護者ニーズを把握しながら、教育保育の質向上に努めていきたい旨を回答。
- ・「19 児童遊戯施設整備事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「屋内および屋外の児童遊戯施設は同一施設、場所が望ましい」、「民間の知恵による拡充や町民への特典がある運営等を」の意見に対して、安全面に配慮しながら、子どもたちの遊び場、居場所として定着できるよう、また、雨天時等屋内の遊び場についても今後検討していきたい旨を回答。

- ・「20 宝たち成長お祝い事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「出生率の増加に何が必要か検討すべき」との意見に対して、出生率を増やすには、幼少期からの地域との繋がりや郷土愛の構築も大切であり、今後も子供たちの成長を祝い、子育ての経済的支援として継続していきたい旨を回答。

(松浦学校教育課長)

- ・「21 宝たち検定チャレンジ事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「検定項目の追加」との意見に対して、今後検討していき、補助金の見直しについて取り組んでいく旨を回答。

(宮本生涯学習課課長)

- ・「22 宝たちビジネスアカデミー事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・委員の意見を踏まえ、商工会や地域の経営者など、地域との繋がりが持てる取り組みを継続し、地元根ざした企業やビジネスを起こすきっかけ作りにもなるように、必要な支援として充実を図っていききたい旨を回答。

(中川子育て応援室長)

- ・「23 宝の縁結び事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「あいきゅんの登録料の全額助成」、「仲人や昔ながらのお見合い方式の取り入れ」との意見に対して、結婚アドバイザーを増やし、あいきゅんを周知するとともに、登録料についても検討していきたい旨を回答。

(宇野会長)

- ・「16 子育て世代包括支援センター活用事業」、「17 不妊治療費助成事業」、「18 番 未就学児の教育保育の質向上」、「19 児童遊戯施設整備事業」、「20 宝たち成長お祝い事業」、「21 宝たち検定チャレンジ事業」、「22 宝たちビジネスアカデミー事業」、「23 宝の縁結び事業」は「継続」が圧倒的に多いため、「継続」で採決してよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

- ・議事を進行し、「基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の説明・審議へ移行。

(山本健康福祉課長)

- ・「24 一般介護予防事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・委員の意見を踏まえ、住み慣れた地域で自立した生活ができるような認知症予防や介護予防の取り組みを行い、新たなサポーターの育成、新規サロンの立ち上げ支援を石川県理学療法士会と協力して実施していきたい旨を回答。

- ・「25 認知症総合支援事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・委員の意見を踏まえ、認知症への理解を深めるために、出前講座やフォーラム、ホームページなどの普及啓発の他、今年度から住民健診の会場でも認知症地域支援推進員による相談会を実施している旨を回答。

- ・「26 在宅医療介護連携推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・委員の意見を踏まえ、エンディングノートを有効に活用していただけるよう、普及を進めていく旨を回答。
- ・「27 地域包括支援体制の整備」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「宝達高校との連携は」との意見に対し、認知症サポーター養成講座を開設し、宝達高校生が12名参加した旨を回答。

(松坂健康づくり推進室長)

- ・「28 健康増進事業（がん検診）」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・委員の意見にもある啓発活動の重要性については、集団健診の会場にがん検診のパンフレットの設置、健康づくり推進員への研修会を通して、住民の方へ直接周知を行うほか、広報やホームページ、ケーブルテレビを通じて、がん検診の普及啓発を行っていく旨を回答。
- ・「29 健康増進事業（特定健診、保健指導）」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「受診率の向上のために工夫」の意見に対して、働き盛りの40代50代の方が受診しやすいように、集団健診の日程については、すべての曜日を入れていることや、土日健診を複数設けていること、また集団検診の受診者、がん検診の受診者には、ほっぴーさんカードのどこでもポイント50ポイントを発行している旨を回答。

- ・「30 地域組織育成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「町内活動との連携は」との意見に対して、1月の能登半島地震の際は区長さんや民生委員さんと協力して炊き出しへの参加、健康教室や介護予防教室として区の会館で、体操教室や閉じこもり予防としてウォーキングなどを行っている旨を回答。
- ・「小・中高生への食育活動を」との意見に対して、町内の児童クラブや宝達高校において調理実習だけでなく、講話も行い、家庭でのより良い食生活・食習慣に繋がるような活動を行っている旨を回答。

(坂井企画情報課長)

- ・「31 地域交通政策推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「オンデマンドを活用した交通システムの取組」とのご意見に対して、他市町の運用についても検討する旨を回答。

(長谷川総務課長補佐)

- ・「32 地域行事サポート事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「モデル地区での内容を精査してほしい」、「他の地区でも連携協力ができるようにしていくことが大事」との意見に対して、モデルでは人口減少が進んでいる地区内での連携協力等を実施しているが、人口の少ない地区だけでの運営は難しく、今後は他の地区や若者が参加できる事業になるようにすることが必要であると考えている旨を回答。

(宇野会長)

- ・「24 一般介護予防事業」、「25 認知症総合支援事業」、「26 在宅医療・介護連携推進事業」、「27 地

域包括支援体制の整備」、「28 健康増進事業（がん検診）」、「29 健康増進事業（特定健診・保健指導）」、「30 地域組織育成事業」、「31 地域交通政策推進事業」、「32 地域行事サポート事業」は「継続」が圧倒的が多いため、「継続」で採決してよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

- ・32 項目すべての審議が終了。
- ・次第に沿い、その他について委員に意見を伺う。

（委員）

- ・評価シートの重要業績指標が1つしかない。目標に向かって事業を行う上で、指標が1つというのは違和感を感じる。
- ・事業にはいろんな方面がある。
- ・そういうところは見直したほうが、評価する側も、目標に向かっていろんな取組をしていることが評価できる。

（委員）

- ・初めて参加したが、半分ぐらいは自分の知らないことが多かった。
- ・こんな事業がある、こんな制度があるということを発信してほしい。

（委員）

- ・指標の達成度を見ているだけで、成果というのは何だったんだろうと感じる。
- ・成果というのでは、「これを達成しました」ということ。
- ・成果が見えてないと、ただなんとなく目標達成しているだけの事業になっている気がする。
- ・例えば、宅地造成したら、何人人口が増えたなど、結果が見えないと、指標は達成したが、何か答えになっているかは見えない。成果を何か数字に出して欲しい。

（委員）

- ・32 項目は全て大切な事業ばかりだと思う。
- ・意見の中に、いろんな事業を合わせて検討したらどうかとの意見が結構ある。
- ・町にどうやって人を呼び込むか、活力が出せるか、町外から魅力のある町と思ってもらえるかということを考えると、今の評価シートで四つの項目に分けていろんな事業あるが、総合的に連携して魅力ある事業をする必要がある。
- ・第3期は町外に「宝達志水町はこういう町です」というような事業を考えて欲しい。

（委員）

- ・非常にボリュームが多い、別の観点から見たら、これを全部町がするのは大変。
- ・KPI がずっと0などところを見ても、負担が大きいという視点も含めて、何かどれも相場的な感じで政策もある。
- ・魅力というか一つ軸を決めてやるのがよい。例えば、スポーツの視点から中心に見て、そこからスポーツイベントで、農産物のブランド化PR、そこからさらに新規就農の支援とか、健康寿命が上がり医療費削減、健康にも特化するみたいなどころの繋がりも一つストーリーとして見せたり。

- ・特色を出していくと非常に町の PR に繋がる。

(委員)

- ・企業誘致とか宅地分譲とか、データ上全然動いてないものが多い。
- ・企業誘致、宅地分譲する前に、その周りの整地、整備をしていかないと。魅力ある宝達志水町を作らないと人が集まらない。
- ・羽咋市の宅地分譲で新しい入居者がすぐ決まった件についても、近くに道の駅あったり、交通の利便性が良かったりする。周りの整備からやっていかないと、いくら毎年目標を掲げていても実績には繋がらないのでは。

(委員)

- ・内容がすごく濃い、これが全部実現したらすごい町になると思った。
- ・この委員が、町民の委員がすごく少ない。
- ・事業ごとに当事者の方に集ってもらい、一緒に考えるっていうような、ワークショップのように意見を言いやすい雰囲気の中で話をしたら良くなるのでは。

(宇野会長)

- ・能登半島地震から7ヶ月経って、宝達志水町の柳瀬地区の方へ行ってきた。液状化現象がかなりひどいことになっていると感じた。
- ・リスク管理、震災だけじゃなくて、宝達志水町だと、ため池の決壊など、今後、起こりうる話だと思う。
- ・総合戦略にリスク管理というものを盛り込んでいく、そういう時代に入ってきている。

**【委員全員が発言を終える】**

(宇野会長)

- ・審議に対する謝辞と、審議を終了し進行を事務局へ返す旨を発言。

(松榮副町長)

- ・審議に対する謝辞を発言。
- ・第1期総合戦略、第2期総合戦略の町の人口ビジョンについて比較し、成果について説明。

(事務局)

- ・審議に対する謝辞と、企画情報課長から閉会の挨拶をする旨を発言。

(坂井企画情報課長)

- ・審議に対する謝辞を発言。
- ・提言をまとめ、引き続き事業を進める旨を説明。
- ・「資料5 第3期総合戦略策定について」に関する説明をし、会議を終了。